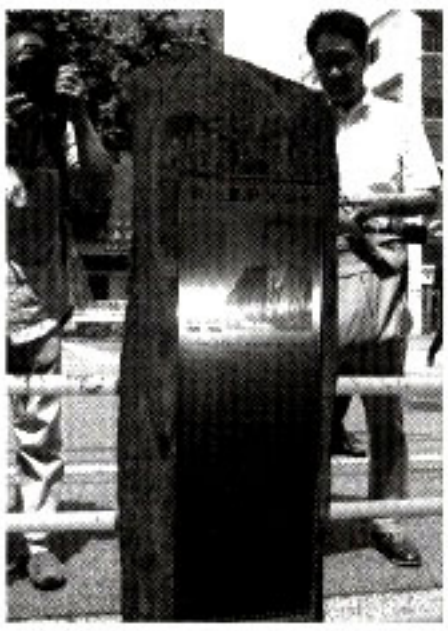
■大阪支局　✆06-6344-3802　E-mail:cs-osaka@wlpm.or.jp

賀川を語る記念碑完成

神戸市兵庫区の生誕地で除幕式

賀川豊彦の生誕地を示す記念碑が、神戸市兵庫区に建てられた。「賀川豊彦献身100年記念事業 神戸プロジェクト」の一環で、同委員会の調査で生家跡が判明。そこから約60メートル西の島上町1丁目の歩道上に完成した。賀川豊彦の誕生日である7月10日に除幕式が行われ、関係者や支援者らが喜びを共にした。



高さ130cmの記念碑

川崎重工労働組合開館で式典が開かれ、主催の同プロジェクト実行委員会・今井鎮雄委員長が挨拶に立った。今井さんは「今、もう一度、賀川を見直さないといかんという風潮が出てきています。賀川の出した『友愛の政治経済学』は、当時は日本では相手にされませんでしたが、まさに今の世界に警鐘を発するものとして、ごく最近見直されてきました」と、賀川の業績が現在に生きて働いていることを語り、原点である場所にできた碑を「神戸のシンボルとして大事にしていこう」と、呼び掛けた。

賀川豊彦生誕地記念碑除幕式。左から賀川督明さん、今井鎮雄さん、矢田神戸市長、石川株式会社・戎社長

来賓の矢田立郎神戸市長は「ここは神戸開港の地。まさに神戸の原点です。このような偉人がこの地に生まれたことを、碑を通して多くの人の記憶にとどめておかなければ」と、称えた。

賀川の信仰と足跡を伝え、様々な形で賀川の理念を発信していく拠点となる賀川記念館の再建が、同プロジェクトの柱として進められてきた。4月にグランドオープンした記念館の賀川督明館長が、碑完成までの経緯と碑に込められた意義を述べた。

賀川の生誕地は、神戸プロジェクトのメンバーらによって、現在食品卸や包装材の製造販売を行う石川株式会社の神戸食料倉庫が建っている場所だとわかった。石川株式会社ではこのことを喜び、美しいレンガ造りの神戸本社前に「ぜひ記念碑を造りましょう」と、言ってくれたという。この日、石川株式会社の戎民幸社長が来賓で出席。大きな拍手が贈られた。

賀川館長は「公共の場所に碑を建てるのだから、建てる我々は碑の意味を語り継いでいかなければ。これは私たち自身がどんな市民社会をつくっていくかを考え行っていく、そのための証しとして建てられたもの。賀川記念館と共に、いろんなルーツを通して共に語り継ぎ、新しい幸せな社会をつくっていきたいと願っています」と、語った。

除幕式では今井委員長、矢田市長、戎社長、賀川館長の手によって幕が降ろされ、賀川の肖像を刻んだ碑が参加者の前に披露された。玄武岩の自然な形の石にはめ込まれたステンレスの板には賀川の活動が記され、道行く人に業績を伝える。賀川の孫にあたる賀川館長は「賀川はわかりにくい人。いろんな側面を持った人でした。今はメディアもアカデミックな世界も一様に、わかりやすいことがいいことだというふうに、人々を誘導してきたように思います。わかりにくくて複雑なことを、わかりやすく受け止めてしまおうとすることが、物事をゆがめているのではないか。豊彦のわかりにくさはこれからの社会のいいモデルだと思います」と、賀川の人間性に触れた。

この日は生誕祭として、賀川のゆかりの地を歩く「賀川ウォーク」や記念講演会、賀川の生涯を描いた映画「死線を越えて―賀川豊彦物語」の上映会も催された。

【藤原とみこ】